

1 溝口露頭の位置

中央構造線溝口露頭は、伊那市長谷の美和湖（ダム湖）に半島状に突き出た南側の崖にあります（図-1）。

溝口露頭（写真-1）は中央構造線が観察できる露頭として戦前より知られていました。

国道152号線脇の長谷郵便局南の道を西に折れると「中央構造線溝口露頭」の案内板があり、周囲は公園になっています。



図-1 溝口露頭の位置図

2 露頭で見られる地質現象①貫入岩（写真-2）

露頭中央より左に見える茶色の岩石は、1200～1500万年前に中央構造線の割れ目に沿って地下から



浸み上がったマグマが冷えて固まった（高木・柴田1992）貫入岩の岩脈です。腰の高さの所には左上がりの断層が認められます。

②鏡肌

観察路の行き止まりの大きな岩石の表面は平らでツルツルしています。



写真-1 溝口露頭全景（パノラマ写真のためゆがみがあります・上下にある赤矢印部分が断層）

これは「鏡肌」と呼ばれ、断層運動によって硬い岩同士がこすれ合ってきた滑らかな面です。

③新しい断層（写真-3）
露頭の中央に立つと、右に2本の直線的な断層が認められます。この断層は、この露頭で見られる最も新しい断層運動によるものです。

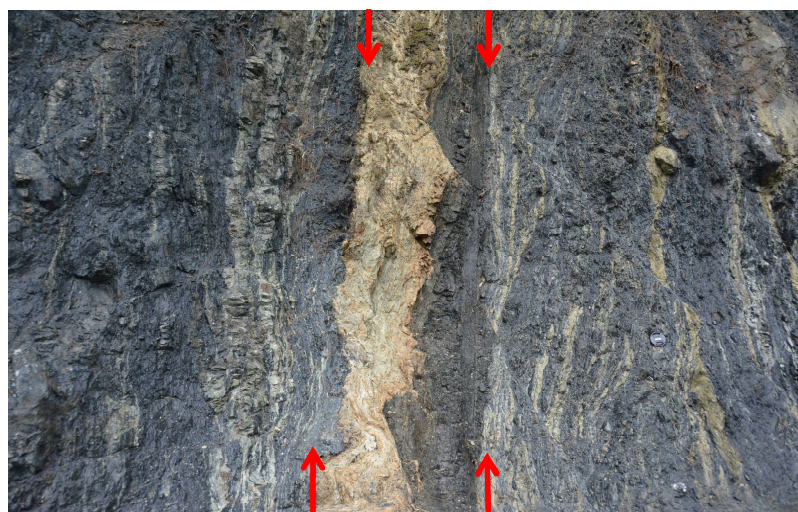


写真-3 新しい断層と地層の複雑な模様(ここでは直線性の強い断層線が2本認められる。)

④地質境界としての中央構造線

中央構造線の活動は既に終わり、現在は領家帯と三波川帯との地質境界となっています。①で解説した貫入岩の右の多くは三波川帯で、海洋性堆積の変成岩からなります。黒色部は泥質岩起源の結晶片岩で、黄緑色部は火山性堆積物起源の結晶片岩です。これらは海底に水平の縞状に堆積していたと思われませんが、日本列島の地下に付加体としてもぐり、隆起する過程でねじ曲げられたり切断されたりしてもみくちゃにされてしまいました。

貫入岩の左は領家帯です。主にマグマが冷えて固まった岩石が断層運動によって変化した変成岩が見られます。

